

～ 循環器内科で働く方へ～

「第1回 日本フットケア・足病医学会 富士山セミナー」のご案内

2016年度診療報酬改定において、透析クリニックが全ての人工透析患者の足を日常的にチェックし、重症度の高い虚血が見られる患者をスクリーニングして、下肢救済を行う専門病院へ紹介することで算定が可能となる「下肢末梢動脈疾患指導管理料」が新設されました。これには腎不全患者が重篤な経過をたどり、足や命を失いやすくなることが背景にあります。

管理料は全ての患者の血流を評価して、危険度を層別化するためにあります。危険度の高い足であれば、その危険度および傷をつくらないための工夫を共有化する必要があります。

いったん傷ができると、血流の改善だけでは下肢救済は望めません。傷の安静も含めた創傷管理とリハビリ、栄養管理などが必要です。



腫にできた傷



水虫の薬によるびらんが発生



腫の傷は治癒に成功



傷の不適切な処置で前足部を失う結果に

重症下肢虚血のため腫に傷ができた患者の足。水虫が確認できたため、新たなトラブル防止にと水虫の薬を用いたところ、びらんが発生。

足のゆびに傷ができた場合、靴を履いてすたすた歩くべきではなく、またそのような知識をもたない循環器専門施設であったため、血行再建後にゆびが壊疽してしまいました。

血行再建と腫の傷の治癒を成功させたにもかかわらず、正しい傷の管理ができずに前足部を失う結果に。

現在、この施設では装具外来も新設され、足を総合的に診る地域連携を広めています。

循環器専門病院では、「傷がない虚血肢をどう扱うべきか」「傷の管理が分からない」「血行再建したのに足がよくなる」などの疑問や悩みを抱えることもあるでしょう。

本セミナーでは、「足を守るために血行再建以外になにをすべきか」「危険な足や傷の見分け方」「具体的な外来の運営とその連携の工夫」を学べる総論的な講演やライブ・ワークショップをご用意しています。

明日から生かせる知識や考え方が身に付き、人脈も得られる本セミナー。奮ってご参加ください。会場で皆様にお会いできることを楽しみにしています。

第1回 日本フットケア・足病医学会 富士山セミナー 会長 花田明香

花田明香 (Hanada Sayaka) ・プロフィール

2000年、山口大学医学部卒業。6年にわたり心臓外科医としての初期教育を受けた後、2006年より血管外科医として透析グループに勤務。足とその歩行を守るための多職種チーム「はながたみ」を立ち上げ、糖尿病・透析患者を中心に多くの下肢救済に携わる。2017年より新富士病院外科診療部長兼血管外科センター長。2018年、静岡県東部ハンズオンセミナーを立ち上げ、フットケア指導士、脈管診療技師、理学療法士、義士装具士らと共に、足を見立て危険度を知るための具体的な方法を広めている。

◆循環器内科のフットケアに関わる主たる講演履歴

「血管外科医が伝授するフットケア」(2015年11月・愛知) / 「糖尿病・透析患者の足にひそむ危険とその対処法」(2018年9月・静岡 他) / 「透析室で見逃してはならない虚血のサイン」(2018年11月・三重) / 「これからは始めるフットケア」(2018年12月・愛知) / 「足を解く～血管外科医からフットケアナースへ～」(2019年3月・大阪)

「第1回 日本フットケア・足病医学会 富士山セミナー」概要

●会期——2019年9月7日(土)・8時55分～18時05分

●会場——コンベンションぬまづ (プラザ ヴェルデ)

TEL : 055-920-4100

静岡県沼津市大手町1丁目1-4 (JR沼津駅北口より徒歩3分)

●参加登録費 (当日)

参加区分		当日登録
医師・企業	会員	10,000円
	非会員	11,000円
コメディカル	会員	8,000円
	非会員	9,000円
学生 (学生証提示)		2,000円

●参加方法

事前参加登録の受付は終了しました。当日参加をご希望の方は、セミナー当日、会場となるコンベンションぬまづ (プラザ ヴェルデ)・1F ホワイエ「参加登録受付」までお越しください。登録受付は8時15分～17時となります。

◆セミナー内容・およびテーマ

テーマは「The Team work - Let' s climb to the Mt.Footcare with the map -」。フットケアを登山に例えれば、頂上には「患者の足を守り、歩行を守り、その人らしい人生をまっとうすること」があります。そこに到達するためには、足をみる人々がフットケアに関する十分な知識と経験を持ち、チームワークを重視することが大切です。本セミナーではフットケアに関わる多様な職種の方をお招きし、医療従事者はもちろん非医療従事者にも役立つ講演・企画・展示を行います。

◆日本フットケア学会について

フットケアは元々、日常の大半を靴で過ごす欧米で発達した「足の医学」です。近年の日本において、フットケアはチーム医療として取り入れられると共に、患者のQOL (クオリティ・オブ・ライフ) と医療の質の向上、医療の効率化を追求するための効果的な医療手段として注目を浴びるようになりました。それを受けて、チーム医療によるフットケアの正しい知識の啓蒙・普及を目指し、2003年10月に「日本フットケア学会」が設立されました。

2019年7月1日、当学会は「日本下肢救済・足病学会」と合併し、「日本フットケア・足病医学会」が新設されました。